

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 9月号 (NO53)

2014年9月10日 (水) 発行 (毎月10日)

【農暦】修行僧が挑んでいる様な気分に！

○昨夜(9日)はスーパームーンで月が普段の一割以上大きく見えると云う。8日は中秋の名月であった。雲間にこうこうと光る月は、確かにいつもの月より大きい様に見えた。八丈島の台風よる豪雨以外は、ここ数日は異常気象を話題にしないで済む様な落ち着いた天気が続いている。草の繁茂力に負けて荒れ果てた畑の除草作業を体力と相談しながら続けている。まともな除草に比べ5倍以上の労力になると実感している。収穫を優先すれば草が、除草を優先すればトマトは熟し過ぎ、ハウスをやれば畑が、下の畑をやれば、家の前の畑がとモグラタタキの様な作業になっている。きりが無い作業が続く。今更ながらと思うが愚痴を言う積りは無い。草と云う自然に修行僧が挑んでいる様な気分にもなる。収穫に結びつかないと思いつつもひたすらでもないが目の前の草を刈っている。

○昨年は薄^{すすき}に団子を供え中秋の名月を愛でた記憶があるが、今年はそんな気分にならない。8日に環境の市民研修で花王の鹿島工場に行った時の話で花王の三日月のロゴマークの話題からスーパームーンの事を知った。去年の中秋の名月は19日で11日も遅かった。夏の農作業など落ち着くだけの時間が出来たのかも知れないが、今年は自然の移ろいを感じながら自然を愛でる気持ちの余裕が無くなって来ている様に思える。気持ちに潤いが不足して来ているようでチョット寂しい。花王のロゴマークの話題の主から“月がとっても青いから”などと歌いながら散歩して来たと聞き、スーパームーンを仰ぎ見た次第である。

○お盆過ぎから半分は徒労でしかないと思いつつも、草刈りを断続的に進め、畑らしい景色に変えて来た。農家の人からは、まだ畑になってないと言われそうだが、9日には耕起して、白菜を定植する畝のスペースを作った。白菜の苗は発芽して生育中である。お盆明けから24日頃までが播種の時



＜足尾銅山の坑道＞延べの長さ 1234km もあったと。過酷の労働が坑夫の人形から想像された。交吟会で、6日撮影



＜白菜の苗＞間引き前、雨水で弱っている。柏で。10日撮影

期と聞いていたが、少し遅れた1日に播種した。一度は播種を諦めたが多くを欲張らず^{しつかり}育てたいと思っている。

【楽農】草と格闘！

<ハウス> ; トマトなどの収穫、

<畑A> ; トマトなどの収穫・草払い機で全般除草。

<畑B> ; 黒豆、小豆、金時、トマト、茄子、里芋などの除草。

トマトは一部出荷。

*除草作業 ; 除草が不十分なまま、お盆で10日空けた結果は草でジャングル状態になる。トラクターの連結シャフトが外れ(20日)、草払い機歯は^{こぼ}毀れ(2日)、燃料蓋が開かない(22日)など作業の出鼻を挫かれながらも、せめて黒豆の所^{くじ}くらいはと、草刈りを繰り返し実施する。

*雑感 ; イベントや雑事は休憩日と考えると体力的には良い加減であった。作業日は雨で、イベント日は晴れる事が多い。恐れ多い事だが天を恨んでしまう。草の繁茂力は半端ではないと何度も痛感した。



<カボチャ>草に負けず収穫が多い。南部一郎はこれから。9日撮影



<極甘ミニトマト>成熟過ぎを取った後。一時は草の中に。9日撮影

【楽市】イベント交流・直売など

○その他 ; コミュニティビジネス講座(第2回研修見学会・23日) ゴミの会(27日)、OB会(29日)、法事(30日) 交歓吟詠会(田中正造旧宅。足尾銅山・6日) 市民研修(花王、新日鉄住金工場見学・8日)に参加など。

*谷川岳登山の計画 ; 9月に考えていたので、痛風発症した後は、農作業、バードゴルフ、ウォーキングなどで足腰の鍛錬に心掛けて来たが、草刈りやイベントが何故か多く準備不足になっている。田部井淳子さんが出たテレビの同じ山の番組(5日)で最高齢92歳平均74歳の登山クラブの話に勇気付けられ、雲取山で遭難し7日後救出では自重を促されたりしたが、時期も含め無理しない形で実現したいと思っている。

【つぶやき=Tweet】日本の農業は絶望からの再スタートか！

○一度に数冊購入し、少しだけ読んでツンドク書になっていた「日本農業への正しい絶望法」神門善久著を、たまたま読む本が無くなり読み始めた。本のカバーに「有機栽培」「規制緩和」「企業の参入」等のキーワードをちりばめて、マスコミ、識者が持て囃す^{はや}「農業ブーム」は虚妄に満ちている。日本農業は、良い農産物を作る魂を失い、宣伝と演出で誤魔化すハリボテ農業になりつつあるのだから、JAや農水省を悪者にしても事態は解決しない。農家、農地、消費者の惨状に正しく絶望する。そこからしか農業再生はあり得ないのだ”

と書かれていた。現実の問題認識では首肯させられることばかりで、良かれと来て来たことが全面否定された感じである。読了していないが私の浅はかさを痛感するばかりである。現状の農業を巡る悪さ加減がリアルに書かれている。すべてがひど過ぎると再認識させられた。購読を薦めたい本である。

○マスコミや「識者」の高慢さ・有害さを指摘せざるを得ないと言っているが、3.11以降の「識者」の悪さ加減を見せ続けられて来たので、農業の分野でも同じだったのだと思うと、腹立たしくなる。題名の通り絶望である。絶望でリセットしてから出発するしかない。別次元の事だが、私の農的生活(畑)も同じ様な所にある。ひとりヨガリの傲慢さはないと思うのだが、可なり深刻になって来ている。見直したいと思う。

○暗い内容ばかりだと今頃気付いても遅いが、明るい話題が乏しい。無理して書くと下ネタになる。下ネタが悪いとは思わないが、チョット違う「愛とまぐはひの古事記」を少し前に読んだ。著者の大塚ひかりは“性愛メインの物語なのに、性愛への嫌悪感が漂う『源氏物語』と違って、『古事記』は性愛の重さをきちんと書き、生の根本を肯定している。だから読むと自分を肯定でき、「生きる力」が湧いてくる。”と云っている。天皇家の祖先の神人が書かれているが一読の価値がある。歴史観も変わるような気もする。この国は「まぐはひ」よって生まれた。神人は感情を微塵もつつまず、激しく怒り、泣き叫び、^{こうしょう}哄笑する。生命の源である「性」がすべての中心にある。現代に疲れた人々が癒しを求めるならば、。不思議な清浄感、解放感とともに、生きる力が湧いてくる。と解説文にもある。

○谷川岳の近くには倭^{やまと}建^{たけるのみこと}命に因んだ武尊山(ほたかさん)がある。2度登ったが、古事記の話を聞いた記憶があるので付記する。倭^{やまと}建^{たけるのみこと}命は父の景行天皇から異郷、征服を命ぜられ客死した。子が仲哀天皇で2代下って大阪堺にある前方後円墳で有名な16代仁徳天皇になる。明るくもならず?取りとめのないものにしてしまった。

【後記】実りの秋になります。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



<田中正造旧宅>足尾鉍毒の惨禍を天皇に直訴した人。真の文明ハ山を荒らさず川を荒らさず村を破らず人を殺さざるべし1912.年6月の日記がある。交吟会で、6日撮影

発行者; Kogure農場・小暮虎雄

住所; 笠間市本戸4201-10

携帯電話; 090-9333-4135

メール; torao-k@nifty.ne.jp

HP; <http://homepage3.nifty.com/toragigi/>